

水への関心

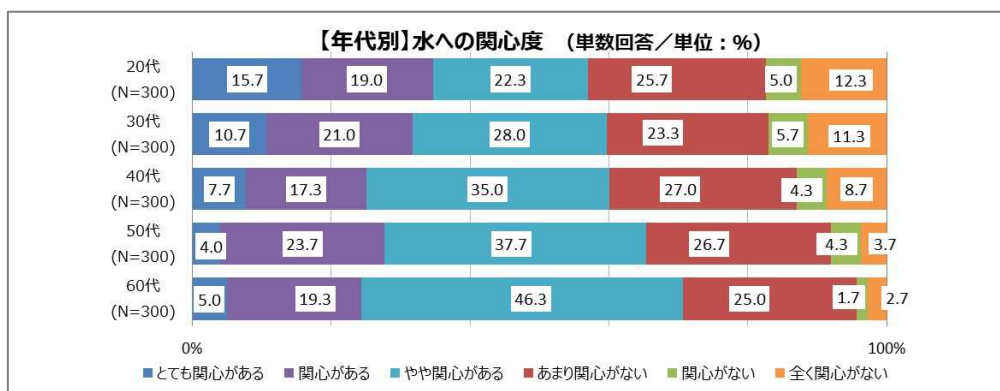
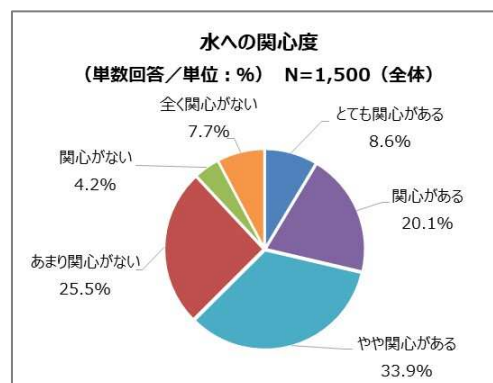
Q.水への関心度は？（6択）

◇高関心層は全体の3割弱

最も多いのは20代、次いで30代

水についてどの程度関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」8.6%、「関心がある」20.1%、「やや関心がある」33.9%、「あまり関心がない」25.5%、「関心がない」4.2%、「全く関心がない」7.7%となりました。「とても関心がある」「関心がある」「やや関心がある」を合計した“関心あり層”は62.6%と6割を超えているものの、そこから「やや関心がある」を除いた高関心層は全体の3割弱（28.7%）でした。

年代別にみると、「とても関心がある」は20代・15.7%、30代・10.7%、40代・7.7%、50代・4.0%、60代・5.0%、「関心がある」は20代・19.0%、30代・21.0%、40代・17.3%、50代・23.7%、60代・19.3%でした。「とても関心がある」「関心がある」を合計した高関心層は20代（34.7%）が最多、次いで30代（31.7%）と、若者に多く見られました。

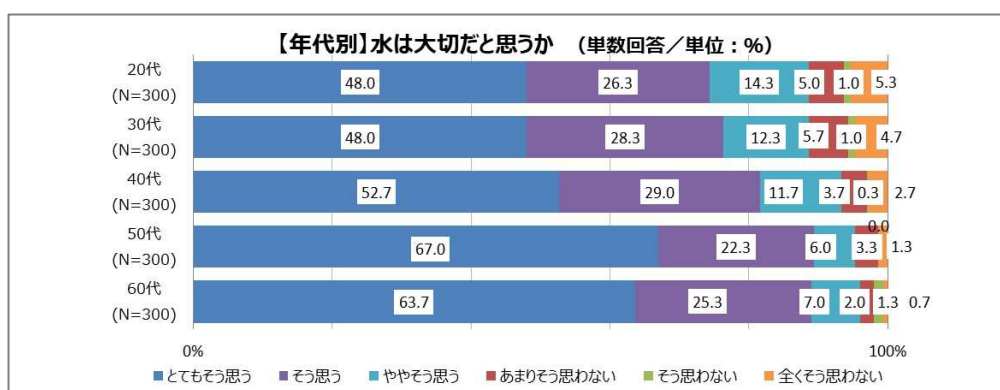
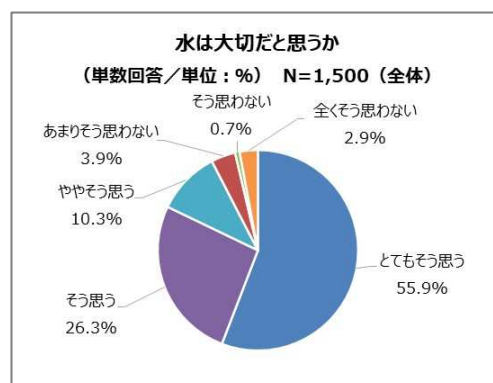


Q.水は大切だと思うか？（6択）

◇“より大切だと思っている層”が全体の8割超

水は大切だと思うかをたずねたところ、「とてもそう思う」55.9%、「そう思う」26.3%、「ややそう思う」10.3%、「あまりそう思わない」3.9%、「そう思わない」0.7%、「全くそう思わない」2.9%となりました。「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を合計した“大切だと思っている人”は92.5%と全体の9割を超え、「ややそう思う」を除いた“より大切だと思っている層”に限定しても8割超（82.2%）でした。

年代別にみると、「とてもそう思う」は20代・48.0%、30代・48.0%、40代・52.7%、50代・67.0%、60代・63.7%と高い年代層に多く、「全くそう思わない」は20代・5.3%、30代・4.7%、40代・2.7%、50代・1.3%、60代・0.7%と低い年代層に多い傾向が見られました。

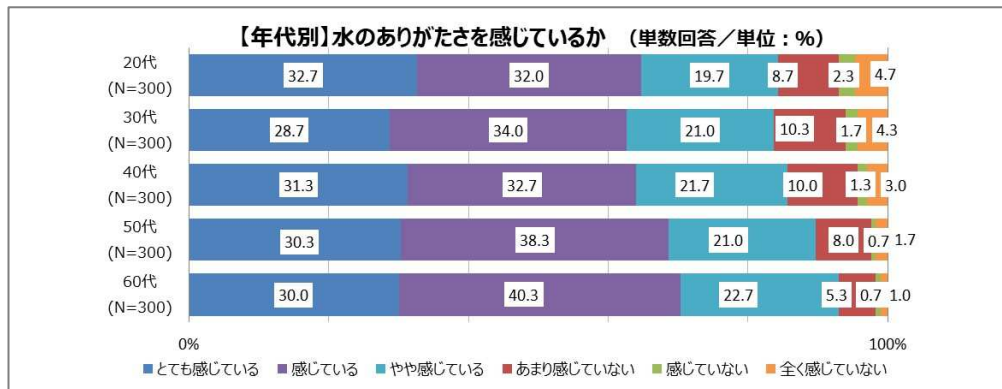
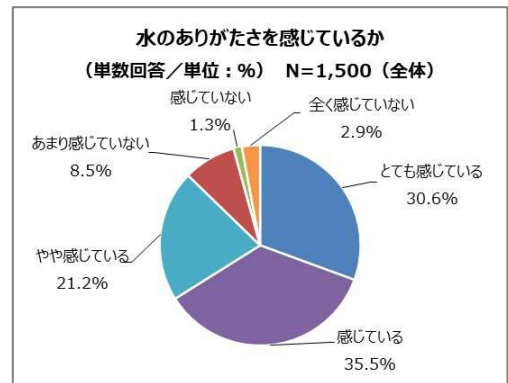


Q.水のありがたさを感じているか？（6択）

◇3人に2人が“よりありがたさを感じている”

水のありがたさを日々の生活で感じているかについては、「とても感じている」30.6%、「感じている」35.5%、「やや感じている」21.2%、「あまり感じていない」8.5%、「感じていない」1.3%、「全く感じていない」2.9%となりました。「とても感じている」「感じている」「やや感じている」を合計した“ありがたさを感じている人”は全体の約9割（87.3%）で、「やや感じている」を除いて“よりありがたさを感じている層”に限った場合でも66.1%という結果でした。

年代別にみると、「とても感じている」は、昨年最も低かった20代が増加（昨年25.0%→今年32.7%）した一方で、最も高かった60代が減少（昨年36.7%→今年30.0%）し、20代が年代別のトップとなりました。



Q.水について関心がある事柄は？（29択+その他+あてはまるものはない）

◇水に関するインフラ老朽化への関心が若干高まる

水に関するさまざまな事柄（一部、水関連以外の事柄も含む）を選択肢にあげ、関心があることを選んでもらったところ、トップ3は、1位「水道料金」（36.7%）、2位「節水や水の再利用」（35.7%）、3位「あてはまるものはない」（24.1%）となり、以下は4位「水道水の味」（21.1%）、5位「水道水の成分や安全性」（20.2%）、6位「上下水道など水に関するインフラの老朽化」（18.5%）と続きました。昨年と比較すると、上位に入った項目自体にはあまり変化はなかったものの、各項目の数値は概ね減少しました。ただ、こうした中で「上下水道など水に関するインフラの老朽化」の数値は若干増加。今年発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故をはじめ、各地の上下水道管の老朽化によるトラブルに関する報道等の影響を感じさせる結果となりました。

